

大気中の塵からの放射性セシウム137の検出について

愛媛県では、東京電力㈱福島第一原子力発電所で発生した原子力災害を受けて、モニタリングを強化し監視を行っていますが、大気中の塵からごく微量の放射性セシウム（Cs-137）を検出しました。

検出された濃度は、ごく微量であり、法令上の周辺監視区域外の空気中濃度限度の約13万分の1であり、人体への影響はありません。

また、その他、放射性セシウム134及び放射性ヨウ素-131（塵及びガス）についても検出しています。

あわせて、お知らせします。

なお、現在のところ連続測定を行っている放射線測定等他の項目に異常は認められていません。

1 採取場所、検出された核種の種類及び濃度

採取場所	種類	濃度	備考
原子力センター	セシウム-137	0.23ミリベクレル/m ³	法令の約13万分の1
原子力センター	セシウム-134	0.24ミリベクレル/m ³	法令の約8万3千分の1
原子力センター	ヨウ素-131	4.4ミリベクレル/m ³	法令の約1,100分の1

法令上の基準値（周辺監視区域外の空気中濃度限度）

セシウム-134：20,000ミリベクレル/m³

セシウム-137：30,000ミリベクレル/m³

ヨウ素-131：5,000ミリベクレル/m³

2 採取期間

原子力センター(八幡浜市保内町) 4月4日15:00~5日15:00

3 伊方発電所の状況

排気筒モニタに異常値は確認されていない。

伊方発電所の測定値（4月4日15:00~5日15:00に採取）

ヨウ素-131：3.3ミリベクレル/m³

セシウム-134及び137：検出されず

4 過去の測定状況（最高値・松山市）

核種	セシウム137	セシウム134	ヨウ素131	備考
最大値	37ミリベクレル/m ³	19ミリベクレル/m ³	150ミリベクレル/m ³	昭和61年5月8~9日
半減期	約30年	約2年	約8日	

チェルノブイリ事故の影響と推定

原子炉内の核分裂によって生成され、天然には存在しない。